

二代目集合 襲名絵師たちの物語

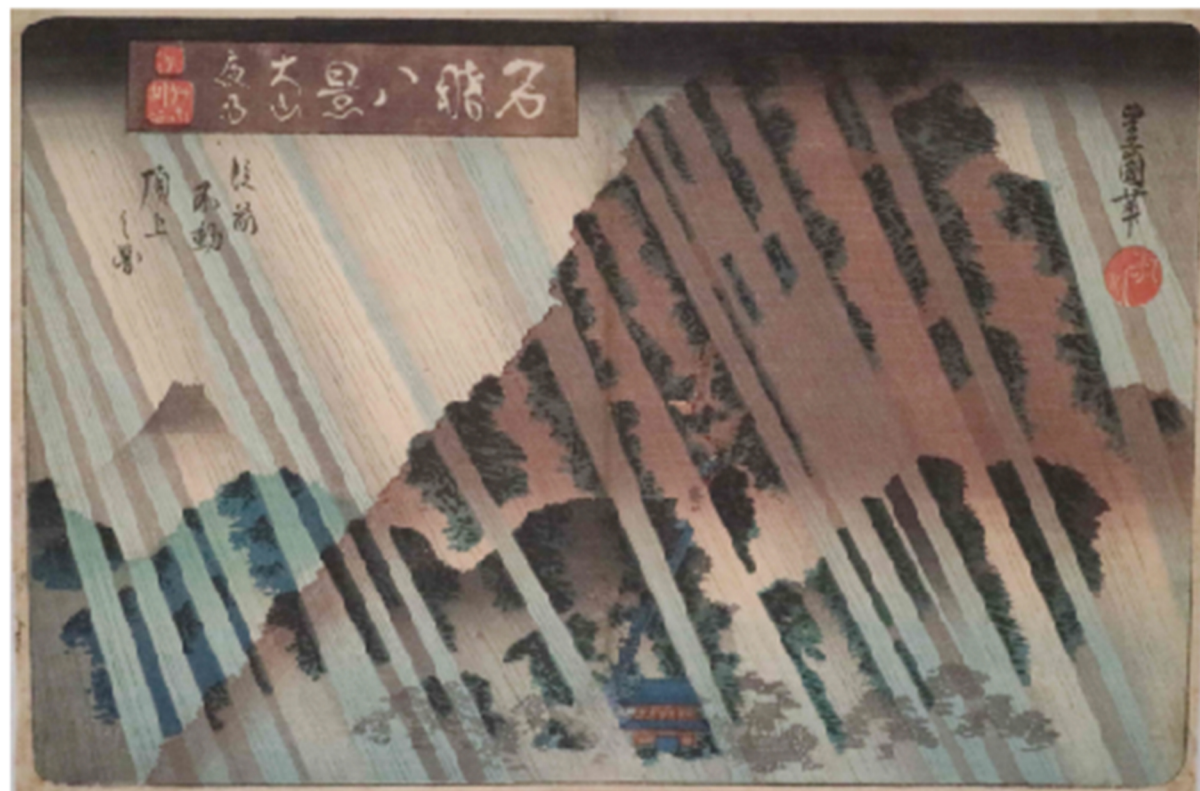
二代歌麿・二代豊国・二代広重・二代国貞

2024年9月14日(土)～11月4日(月・休)

浮世絵館だより

藤沢市
藤澤浮世絵館

2024年
10月
WEB版



二代歌川豊国「名勝八景 大山夜雨」



二代喜多川歌麿
「題名不詳(江の島弁財天開帳)」

浮世絵師たちの中には、著名な師匠の名を受け継ぎ、二代目、三代目を名乗って活躍した者が多くいました。二代目を継承するということは、歌舞伎役者の襲名と同様に、師匠の名声や技術を受け継ぐばかりでなく、さらなる飛躍が期待されることでもあります。

襲名浮世絵師たちが描いた藤沢ゆかりの作品を通して、師匠の作風の影響を受けながらも、初代とは異なる襲名浮世絵師たち自身の個性や奮闘ぶりを紹介します。

襲名絵師たち



入夫?

師匠と二代目はどんな関係?

養子入り?

入婿?

- ・二代歌川広重(重宣) → 入婿(弟子)
- ・三代歌川広重(重政) → 入婿(弟子)
- ・二代喜多川歌麿 → 入夫?(弟子)
- ・二代歌川豊国(豊重) → 養子(弟子)
- ・三代歌川豊国(国貞) → 弟子
- ・二代歌川国貞 → 入婿(弟子)
- ・二代勝川春好 → 同門の弟子

浮世絵が庶民向けに販売された絵画であることから、著名な師匠の名声や技芸を受け継ぎ襲名することが、大きな利益につながったためです。

なぜ襲名したのか?

浮世絵師たちの襲名事情

二代広重(重宣)と
三代広重(重政)

重宣は、広重の養女である辰と結婚して家を継ぎ、二代広重を襲名します。しかし、六年後、二代広重は離婚して師家を出ます。その後、重政が辰と結婚して、二代広重(実際は三代)を名乗ります。

家業としての絵師の仕事、師匠の名と画風を継いでいくことが、二代目の役割なのです。

二代豊国(豊重)と
三代豊国(国貞)

豊重は、師匠である初代豊国の存命中に養子入りし、その没後に二代豊国を襲名します。二代豊国は、弟子の中では年が若く、堅実な画風でした。

しかし、二代豊国の没後(あるいは廃業後)、同門の国貞が豊重を無視し、二代豊国(実際は三代)を名乗ります。

人気も実力もあった三代豊国(国貞)は、その後、豊国一門を率いて幕末の歌川派の中心となります。

流派を率いて発展させていく役割も「名を継ぐ」背景にあることがわかります。

初代から二代目へ～継承と個性～



【図1】二代歌川広重 「東海道五拾三駅 日本橋 繁栄之図」 慶応元年(1865)



【図2】二代歌川広重 「東海道五拾三駅 原 富士沼」 慶応元年(1865)



【図3】初代歌川広重 「五十三次名所図会 一 日本橋 東雲の景」 安政2年(1855)



【図4】初代歌川広重 「東海道 十四 五十三次之内 原」 弘化4年-嘉永5年(1847-52)

【図1】と【図2】は、二代歌川広重の「東海道五拾三駅」シリーズです。

【図1】「日本橋 繁栄之図」は、【図3】初代広重の「五十三次名所図会 一 日本橋 東雲の景」を参考に描かれています。また、【図2】「原 富士沼」の図は、【図4】初代広重の「東海道 十四 五十三次之内 原」を参考にしています。これらの図だけでなく、初代広重が描いた様々な東海道シリーズを参考に、二代広重は本シリーズを制作しています。

「東海道五拾三駅」シリーズは、黄色の地摺りの上部にある赤い枠にシリーズ名が書かれ、大きな枠の中には東海道の風景が描かれていて、デザイン性のあるモダンな雰囲気作品です。

幕末から明治にかけて活躍した二代広重は、叙情豊かな初代広重の作風を受け継ぎながらも、西洋絵画の影響を受け、明快でデザイン性のある作品を手掛けていきます。